

# HIGASHIOSAKA CENTRAL ROTARY CLUB

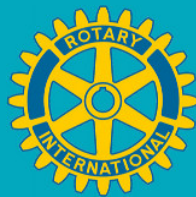
(第 2660 地区)

WEEKLY BULLETIN

No.19

## 東大阪中央ロータリークラブ

創立 昭和47年2月20日  
例会日 毎週月曜日 12:30~  
例会場所 シェラトン都ホテル大阪3F  
事務局 東大阪市小阪本町1丁目5-14  
〒577-0802 小阪本町ロイヤルハイツ 405号  
TEL: 06-6753-8823  
FAX: 06-6753-8826  
E-mail: jaherc@gmail.com



会 長 金子 勝 信  
会長ノミニー 佐井 義 昌  
副 会 長 岡 本 慎 一  
幹 事 尾 崎 元  
会報委員長 尾 崎 元

## BE THE INSPIRATION

インスピレーションになろう

第 2108 回例会 平成 31 年 2 月 4 日 (月曜日) 第 19 号

本日の例会 2月4日(月) **夜** 第1例会

- ソング 『それでこそロータリー』
- 卓 話 『平成の出来事』  
担当: 小川 高弘会員
- 本日の献立 松花堂弁当

次回の例会 2月18日(月) 第2例会

東大阪西ロータリークラブとの合同例会

- 卓 話 『牧師といのちの崖』  
白浜バプテストキリスト教会牧師
- ゲストスピーカー 藤藪 庸一(ふじやぶよういち)様
- 本日の献立 フランス料理

前回の例会 1月28日(月) 第2例会

会長新年挨拶 金子 勝信 会長

皆さん新年明けましておめでとうございます。  
新年のご挨拶も飽きてきた時期だと思いますが、どうぞ宜しくお願いいたします。皆様におかれましては、すばらしい新年を迎えられていることとご拝いたします。皆様ご存知のとおり、今年は、元号が変わる節目の年であります。  
昨年は、一年の世相を現す漢字が「災」でありましたが、その漢字が表すとおり非常に災害の多い年でありました。一方、うれしいニュースも入ってきました。2025年の万博が大阪に決まったことです。すでにカジノを含めた統合型リゾートIRの計画に対する陳情に世界各国から業者が訪れているようです。  
また、ここ数年続くインバウンド観光客の増加によって、昨年イギリスのエコノミスト誌が発表した世界の住み良い年ランキングで大阪は、1位ウィーン、2位メルボルンについて3位にランキングしました。日本人からみた大阪のイメージとずいぶん

違い驚きました。

このように今、大阪は世界に注目させる都市へと変わってきております。日本国内に目を移しますと、4月に新元号の発表、統一地方選挙、5月に新天皇のご即位、6月には大阪でG各国の首脳が集まるG20が開催されます。

また、9月には日本でラグビーワールドカップが開催され、花園競技場でも試合が予定されております。10月には消費税が10%に増税と、非常に変化の多い1年になります。来年はオリンピックもございます。

世界的には、アメリカと中国の貿易摩擦、イギリスのEU離脱等の世界経済の不安定さはありますが、日本そして、大阪の未来は明るい話題が多い年であると思っておりますので、皆さんこれら様々な変化を好機と捉えて頑張っていきましょう。さて、今年度も後半となり、来期へ向けての準備も進みつつあるようですが、私自身は、当クラブ会長として今期の残りの任期に対する意欲は、いささかも衰えておりません。

最大の課題でもあります会員増強についていかに成果を上げていけるか皆様とともに検討し、取り組んでまいりたいと思っております。

今年度の当クラブの行事につきましては、春の家族会、4月の茨木カントリーにてのゴルフ同好会、国際奉仕バスプロジェクトのチャリティイベント、献血運動などまだまだ大きなイベントが予定されております。各委員長、会員の皆様におかれましては、引き続き、ご指導ご鞭撻ならびにご支援のほど、何卒宜しくお願いいたします。

最後になりますが、今年一年、皆様にとってすばらしい年になりますことをご祈念申し上げまして新年のご挨拶とさせていただきます。

1. 本日、例会終了後に第7回定例理事役員会が、3階、真珠の間にて開催致します。理事役員の皆様方にはよろしくお願いたします。
2. 2月2日（土）大阪国際会議場にて開催されます、「2019-2020年度のための地区チーム研修セミナー」には、地区よりクラブ奉仕委員を委嘱されました金子会長が出席されます。

出席報告		中村 委員
本日の会員数	18名	
本日の出席者数	15名	
本日の出席規定適用免除会員	8名	
本日の出席率	93.75%	
12月15日の修正出席率	100.00%	

1月のお祝い	
●入会記念日	岩崎会員
●会員誕生日	岩崎 岩橋（各会員）
●夫人誕生日	細川 治美様 鈴木 経子様
●結婚記念日	百済 岩崎 鈴木（各会員）
●12月の内祝いニコニコ	累計 225,000円
●12月のニコニコ箱	73,000円 累計 1,081,000円

ニコニコ箱報告		SAA 岩橋 竜介
金子会長	山崎様、後ほど職業奉仕に関する卓話をよろしくお願いたします。	
尾崎幹事	地区職業奉仕副委員長、山崎修一様、本日の卓話ご苦労様です。宜しくお願致します。	
佐藤会員	本年も宜しくお願いたします。新年早々バタバタしてますが一緒に頑張りましょう	
浅野会員	皆様遅ればせながら、明けましておめでとうございます。新年会欠席のお詫び共	
細川会員	本日卓話の山崎修一様、宜しくお願致します。また、貴重な出版本ありがとうございます。参考にさせていただきます	
大崎康枝	新年会での皆様のあたたかいお心遣いに感謝いたします。今年も明るく元気な歌声をお届けできるよう頑張ります！	

### 「日本の職業奉仕について」

2660地区職業奉仕副委員長 山崎修一様

「日本の職業奉仕について」というテーマでお話をさせていただきます。「超我の奉仕」「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」「四つのテスト」など、「ロータリーの樹」の根の部分、日本の昔からある「人づくり」の基本的な考え方、特に「甲斐（かい）」「情（なさけ）」「志（こころざし）の三つとどのように結びつくのか、考えてみたいと思います。

まず「甲斐」です。「やりがい」「生きがい」「働きたい」「頑張った甲斐があった」「不甲斐ない」などと日本語で使われますが、これが職業奉仕と結びつきます。健康、家庭、職場などを大事にしながら、目標や理想など目指すところに向かって継続努力するところに「甲斐」があります。しかし、最も大事な点は、単に自分が目標を実現するだけでなく、周りの人たちがそのことによって認めてくれる、喜んでくれることでしょう。ここに「超我の奉仕」の基本がありま

す。さらにその点を掘り下げると、「情」に繋がります。相手の立場に立って考えること、相手の気持ちがわかることがスタートです。そして、その相手の立場から自分を厳しく眺めることが要求されます。この厳しく眺める基準が「四つのテスト」です。一方で「情けは人の為ならず」ということわざは、「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」と本質は同じところにあります。

では、三つ目の「志」について考えてみましょう。ここには5つの視点があります。

第一に、組織は一人ひとりにとっての成長の舞台、自分の力を最大限に発揮する舞台だ、という捉え方です。ロータリーという組織も、明らかに成長の舞台、人づくりの場です。

第二に、そこでいう成長とは、変化の一つ、「変化こそ生命（いのち）」だという点です。皆さんの目の前のグラスを思い切り床にバンとたたきつけると、粉々に割れます。形が変化しました。しかし、グラスには生命はない、では生命って何だろう、それは、自分の意思で変化するという事ではないでしょうか。グラスは残念ながら他の力でしか変化できない、だから生命を宿していないのです。一方で、草花は、自ら水分や養分を吸い取り、光合成をして変化していきます。だから生命です。

第三は、その変化や成長の方向です。日本国憲法第22条には職業選択の自由が謳われています。私も税理士という職業を選択しました。ところが30歳で独立したときに、いくらその仕事をしたくても仕事ができませんでした。全く申告書が書けなかったのです。申告書を書いてくださいというお客様がいなかった、ゼロからのスタートだったからです。人が仕事を選ぶのは当然のこととして、実は仕事人が人を選ぶのだということを経験しました。言い換えると、常に仕事から選ばれる存在になるように変化、成長していかなければならない、「変化こそ生命」の方向は、「人が仕事を選び、仕事人が人を選ぶ」というところにつながっていくと思うのです。

そうすると第四に、仕事から選ばれる存在になるにはどうすればいいかということがポイントになってきます。これこそ正解はないように感じます。しかし、ただ1つだけ言えることは、これからの時代は他の人と同じことをしていたのでは、「あなたにお願します」と言って選んでいただけないだろうということです。「自分らしさ」が大事なのです。

そして第五に、こういう「自分らしさ」を鍛え上げていくには、時間的な自己投資をすべきだという点です。「毎日1時間、1カ月で30時間、そんな大きな差じゃない。だけど、1年がたつとやっている人とそうでない人とで360時間の差になってくる。そうすると1日10時間ずつ追いつこうと思っても36日かかる差になる。それが5年、10年したら圧倒的な差になってもう取り返しはつかないだろう。日々の積み重ね、1時間1時間の自己投資の積み重ねがものを言うよ。」と、ある人に教えてもらいました。例会は毎日ではなく、毎週ですが、その1時間の例会の積み重ねが人づくりの原点なのです。